

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	京都市立石田小学校 第4学年 (男子11人・女子17人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間「明日にチャレンジ」) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケット体験や、選手の方々との交流を通して、障害者スポーツに対する理解を深め、人権意識を高めて、自分の生き方を考える。 ・パラスポーツをきっかけに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの理解を深める。
5 取組内容	<p>1, 事前学習</p> <p>○単元の導入として、リオパラリンピックの映像資料を見たり、パラリンピックの歴史や、競技種目などについて学習をしたりした。</p> <p>2, 車いすバスケットボール体験</p> <p>○1月16日(水) 2, 3校時</p> <p>北京パラリンピック車いすバスケットボールチームのコーチとして出場された、坂野晴男さんと、京都バスケットチームで活躍されている山本英嗣さん、東武志さんをお迎えし、車いすバスケットボールの体験をさせていただいた。</p> <p>初めに、車いすバスケットボールの競技についての説明を聞いた後、選手の実技を見せていただき、実際に子どもたちが車いすに乗り操作させていただいた。</p> <p>その後、2チームに分かれて、実際に車いすバスケットボールの試合をした。だんだん車いすの操作に慣れてきて、自分の思うようにボールを運ぶことができるようになったり、シュートをする楽しさを味わうことができるようになったりと、たいへん楽しんでゲームをしていた。全員が車いすバスケットを体験することができ、「もっとやりたい。」という声が子どもたちから聞こえてきた。</p>



3時間目は、選手の方から体験談を聞かせていただいたり、子どもたちの質疑に答えていただいたりした。山本選手が、子どもたちによくわかるように、丁寧にお話して下さった。なぜ、車いすを使うようになったのか、今の姿になるまでには、どのような思いをしてこられたのか、今、どのように人生を歩んでいこうとしておられるのか、子どもたちに考えてほしいことは何か、ということについて、お話していただいた。最後に、質問を子どもたちがしたが、どんな質問にも丁寧に答えて下さった。

3. 事後学習

自分たちが体験や調べ学習を通してわかったことを、たくさんの人に広めていきたい、という思いを子どもたちが持っていたので、全校生に調べてわかったことを発表する機会を設けた。また、体験を通してわかったことがたくさんあったので、全校生にも体験をしてもらいたいと考え、だれでも楽しむことができる「シッティングバレーボール」と「ボッチャ」で遊ぼう会を4年生が企画し、進行する予定である。

6 主な成果

パラリンピックについて、初めて学習した時は、「障害がある人はかわいそうだな。」とか、「足や手がないのに、スポーツなんてできるのか。」という感想をたくさんの子どもたちもっていた。

しかし、車いすバスケットボールの体験をしたり、選手の方から直接お話を聞いたりしたことで、「足が不自由なだけで、かわいそうではない。」「自分たちと同じように、楽しいことがたくさんある。」「足が動かないだけで、あとは自分たちと何も変わらないのではないか。」という思いを持つようになった。

自分たちの考えが変わったことが、衝撃的だったようで、ぜひそれをたくさんの人にも広めていきたいという思いを抱いていた。

クラスの実態を考えると、本や資料からの出会い方もあるが、やはり実際に体験したり、経験者の方とふれあったりする出会い方のほうが、学びが大きかったようである。

この学習を通して、2020年東京オリンピック・パラリンピックについても理解を深め、関心も高まったようである。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

車いすバスケットボールの体験をして、「楽しかった。」というだけの思いに留まらない様にするために、単元のねらいや、ねらいにせまるような子どもの発言をひろめながら、目的意識をもって学習に臨むことができるようにした。

パラリンピックやパラスポーツに関する新聞記事を継続的に掲示することで、常に関心を持つことができるようにした。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • ゲストティーチャーとの事前打ち合わせに伺うことができず電話ですませてしまった。 • 今回は、4年生だけの体験であったが、たくさんの学びがあったので、全校生や保護者の方々にも一緒に体験したり参観したりしていただければよかった。 • 総合的な学習の時間の一单元として取り組んでおり、車いすバスケットの体験をすることが目的ではなく、それをきっかけにして、さらに学習を深めていくことができるように、関係する書籍を充実させたり、ゲストティーチャーの開拓をしたりしていきたい。
9 来年度以降の実施予定	<p>次年度も引き続き、総合的な学習の時間として、取り組んでいきたいと考えている。ただ、4年生だけの取組として終わってしまうのは、たいへんもったいないので、何らかの形で全校生や、全教職員、保護者も参加できるような形を考えていきたい。</p>